

Charles Goodyear 物語1

Goodyearの名前は、米国の大手タイヤ会社の名前でよく知られCharles Goodyearが偶然にゴムの加硫方法を見つけたということも、ゴムに携わっているものにとっては有名な話である。しかし、Charles Goodyearの生涯についてほとんど知られていないので、豆知識として5回にわたって彼の生涯を紹介したい。

Charles Goodyearは、1800年に米国コネチカット州のNewHavenに生まれ、没年は1860年である。この時代は、綿折機、刈り取り機、汽船、鉄の精錬などが発明された革新的な時代で、チャールズの父Amasa Goodyearもそのような発明家の一人であった。実際、彼は1812年にアメリカで起きた戦争の間、兵士が身に付けていた金属ボタンだけでなく、パールボタンも初めて製造した。そのような父親の影響を受けたのか否かは定かでないが、牧師になりたかった彼は、母親に反対されるとその情熱を生涯ゴムの研究に向けるようになった。

Charlesと新妻Clarissaは、フィラデルフィアに移り、その地で初めての金物屋を開いた。父の製品を専門に扱い、Charlesの店は繁盛した。また、結婚10年で5人の子供にも恵まれた。

1827年、世界恐慌の発端となる破壊的な経済パニックが起こり、彼の店も莫大な借金を残して閉店に追い込まれた。Charlesは、彼の仕事仲間とはちがって破産を宣言することを断ったため、数回の留置経験のうち、1830年に最初の債務者用拘置所に送られた。

1834年、ニューヨークを訪れたCharlesはゴム工業が抱える難問に直面することとなる。Roxbury Rubber Companyのショウウィンドウで、貧弱な設計の膨らませバルブの人命防具(救命胴衣)を見た彼は、自分ならもっ

といいデザインのものが作れる、と考えた。そこで数日後、改良バージョンを持って再び店を訪れた彼に、店のオーナーはこう告げた。「ゴム製品の最も改良すべき点は、暑いときに溶けてべとつくことと寒いときに入るクラックを防ぐことなんだよ。」と。なぜならRoxbury Rubber Companyでは、20,000ドルの価値を失ったゴム製品を埋め隠したほどだったからである。

参 考 文 献

- 1: THE LEGEND OF GOODYEAR THE FIRST 100 YEARS by Jeffrey L. Rodengen
- 2: アイザックア・シモフの科学と発見の年表
(c) 日本自動車研究所 山崎 俊一)



Goodyearの像

*

*

*

*

*